



地区テーマ

地域にやさしさを
ロータリーに活力を

本クラブテーマ

平常心でロータリーを

国際ロータリー第2800地区

鶴岡ロータリークラブ

第2483回(本年度第23回)例会 2010.1.12

●例会日/毎週火曜日(12:30~13:30)

●例会場/東京第一ホテル鶴岡

鶴岡市錦町 2-10 Tel. 0235-24-7611

クラブホームページアドレス <http://www.tsuruokarc.org/>

会長報告

富樫松夫

塚原ガバナーエレクト夫妻が1月19日から26日まで、サンディエゴで開催される国際協議会に出席されますが、16日から出発されるとの事、研修期間中、健康に留意され元気で帰ってきてください。

OEM/ODM

今日のショートスピーチはOEM/ODMの話をしてみたいと思います。

OEMは「Original Equipment Manufacturer」の略で、日本語にした場合は「相手先ブランド名で、製品の製造を行うこと」となります。ODMは「Original Design Manufacturer」の略で、日本語では「相手先ブランド名で、製品を企画・設計から製造まで行うこと」となります。これらは、コンピュータに限らず、製造業一般で使われる言葉です。両者ともに、ブランド力はあるが製造力はそれほどでもないメーカーと、製造力はあるがブランド力がそれほどでもないメーカーが提携し、双方にとってwin-winの形で製造販売を行うためのシステムです。たとえば、あるメーカーがブランド力を利用した新たな分野の製品販売に着手しようとした場合、製造から自社で手がける場合には製造ノウハウが必要となるのはもちろん、工場や製造ラインを持つなどの新規設備投資も必要となります。一方で、高度な技術力を持ち、安定した製品供給を行える力を持ちながらも、ブランド力がないために販売実績が伸ばせないメーカーもあります。こういったケースで、後者の製造に強いメーカーがその力で質のよい製品を製造し、前者の販売に強いメーカーがその供給を受けて自社ブランドで販売を行う、これがOEM/ODMなのです。

では、OEMとODMでは何が違うかというと、それは、それぞれのメーカーが担当する領分の差です。OEMの場合、販売を行うメーカーが製品の企画や設計等も担当します。製造側のメーカーは、ある意味、販売メーカーの工場のように製造部分だけを担当することになります。一方、ODMの場合、製品の企画や設計は製造側メーカーの担当となります。こちらの場合では、販売側メーカーは販売のみに特化することになります。

「近年におけるCO₂濃度の変化と削減対策」

山形大学農学部名誉教授 塚原 初男

1.はじめに

大気中のCO₂濃度は、地球温暖化の主要因とされています。近年におけるCO₂濃度の観測値を、文献及び公表資料から拾ってみました。そして、今世紀における全人類が避けて通れない課題について若干考えてみました。



2.33°Nから39°SにかけてのCO₂濃度変化

M. Tanakaら(1987)によると、CO₂濃度の季節変動を示す山や谷の高低は、日本から赤道、南極にすすむにつれて減少し、南極では季節変動が認められそうにない、という。そして、地球上のCO₂濃度増加の発生源は、私どもの住む北半球中緯度地域にある、とされています。

3.マウナロア観測所におけるCO₂濃度変化

C. D. Keelingら(1976)による1958年から1988年までの30年間のCO₂濃度変化と、1969年から2008年までの最近40年間のCO₂濃度変化

1月は...

ロータリー理解推進月間



出席報告	会員数	41名
	出席	26名
	出席率	66.67%
	前々回確定出席率	76.92%

■RI会長/ジョン・ケニー ■地区ガバナー/佐藤豊彦 ■会長/富樫松夫
■会長エレクト/佐藤孝子 ■副会長/青柳孝治 ■幹事/阿部純次 ■会報委員会/榎野隆博・石田雄

事務局: 鶴岡市馬場町11-63 鶴岡産業会館3階 TEL (0235) 28-3375 FAX (0235) 28-3376
E-mail: tsuruoka08@rid2800.jp

